

平成28年度 新居浜市廃棄物減量等推進審議会議事録

- 1 開催日時 平成28年7月21日(木) 10:00~11:20
- 2 開催場所 新居浜市役所 本庁舎3階 応接会議室
- 3 出席者 (委員) 高橋 利和、西岡 勝彦、佐伯 美鈴、平田 ヤエ子、野村 佳代子、
眞鍋 昌裕、永易 弘三、飯尾 和之、小野 茂樹、篠原 茂
(計10名)
(市) 伊藤環境部長、藤田ごみ減量課長、神田ごみ減量課副課長
- 4 欠席者 (委員) 神野 康一、井田 仁美、坂上 公三、今村 美鈴、佐伯 弘子、
池田 悦子(6名)

5 環境部長あいさつ

6 委員紹介 各委員、事務局順に自己紹介

7 会長、副会長選出

日野会長の委員辞職に伴い、会長の選出を行う。立候補、推薦がなかったため、事務局にて提案し、副会長の野村委員(新居浜市女性連合協議会)が会長に選出された。

副会長が会長に選出されたため、副会長の選出を行う。立候補、推薦がなかったため、事務局にて提案し、眞鍋委員(新居浜市環境カウンセラー等交流会)が副会長に選出された。

8 会長、副会長あいさつ

9 議事

(野村会長)

それでは、本日の議題に移ります。

お手元の資料「新居浜市のごみ処理状況」について、まず、1の「ごみの排出状況」と2の「新居浜市一般廃棄物ごみ処理基本計画」について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 説明

(野村会長)

ありがとうございました。今の説明に関しまして何かご質問等ございますか。

(西岡委員)

初めて会に参加するのですが、突拍子もない事を聞いたらすみません。一人1日あたりのごみ量

について、新居浜市は愛媛県、全国に比べて100gぐらい多いということですが、2月に、松山市は人口50万人以上の都市の中で一番少ないという発表を聞きまして、ごみ減量課長にお伺いしたところ、「あそことは、取り方が違うから」と言われました。松山市と同じやり方にしたら、新居浜市のごみも減るんじゃないかと思うのですが。松山市はだいたい800gぐらいらしいのですが、どういうところが違うのでしょうか。

(事務局)

新居浜市と松山市の違いとしては、事業系ごみの搬入の仕方が違います。松山の事業系ごみは、ほとんど入っていない。ごみの受け入れを、新居浜市より制限しております。

(西岡委員)

それじゃあ、松山市と同じように制限したらどうですか。

(事務局)

松山市全体で出たごみ量と、松山市が処理したごみ量という違いもありますが、ごみの搬入方法や、どういったごみを受け入れるかは、それぞれの市で決めておりまして、国の方で統計として出しておりますが、実際はごみの収集の仕方にバラつきがあり、一概には比べにくいという点があります。

(野村会長)

他に質問とかご意見はございませんか。

(飯尾委員)

1人1日当たりのごみ排出量の算定に、事業系ごみも入っているということですか。

(事務局)

はい。そうです。

(飯尾委員)

それ(事業系)を除けての数字はないのですか。

(事務局)

事業系をのけて、家庭ごみだけで出すことはできます。しかし、家庭ごみについても、それぞれの市でごみの分別方法や処分できるものに違いがあります。また、例えば、民間の処理業者がある市ですと、民間で4割処分され、市で処分したものが6割となりますと、この6割の数字しか、国の統計へ入りませんので、民間の処理業者が有る無で、違ってくるといことがあります。

(野村会長)

新居浜市の場合は、事業系のごみ新居浜市の処理場へたくさん入っている、ということでは

うか。

(事務局)

新居浜市はある意味、事業系ごみをたくさん市で処分していると言うこともできます。

(西岡委員)

もう1点、お聞きします。リサイクル率も新居浜市は低いのですが、理由は为什么呢。これだけ、リサイクルなさっているのに。よそはもっと細いリサイクルをしているということでしょうか。そんなことはないですよ。統計の取り方ですか。

(事務局)

これも、影響されるのは、事業系ごみということになります。資料でも説明いたしましたが、事業系ごみの分別が悪いということ。事業系ごみがたくさん入りますと、リサイクル率が悪いという可能性が高いと思います。一般家庭のごみは、ごみステーションに出されて、分別ができていないものには、シールが貼られて取り残されますが、事業系ごみはパッカー車で入ってしまいますと、分別していなくてもそのまま、燃やすごみに全部いってしまいます。

(西岡委員)

はい。わかりました。

(小野委員)

なかなか、他市と比較するのは難しいですよ。分別の方法が違うから。松山と比較するのは無理なんです。松山はものすごい分別をしようとですよ。細部にわたって。新居浜も同じようにしたらいいんでしょうけど、松山は慣れとるからしよるだけの話であって、するとなったら、苦情があがって大変ですよ。統計上、ええとか悪いとかいうのも、これはどうしようもないことだと思います。

(平田委員)

あの、ちょっとお聞きしてよろしいですか。私達は、毎日きれいに分別してごみステーションに出しているつもりなのに、この資料で見ると、燃やすごみにプラスチックごみが混じっているということですが、調べ直すのに、どのくらいお金がかかっていますか。燃やすごみの中に白色のトレイ、発砲スチロールでできているものは、入れてはいけないけども、薄いビニールとか、透明のトレイは焼けるということなんですよ。そういうものが混じっているからルールに乗せて調べ直しているということですよ。

(事務局)

これは統計上、職員がいくつかのごみ袋を調査したもので、全部調査したわけではないので、特に調査費用はかかっておりません。また、ごみステーションで収集した燃やすごみの袋を全部開けてルールに乗せているわけではございません。

(平田委員)

プラスチックごみの中に、生ごみが入ったりしているのはいけないと思いますが、トレイもきれいに洗ってスーパーへ返したりもしています。お魚のトレイの白い厚みのあるものは、プラスチックごみで出しますが、燃やすごみにビニールや、例えば、ちりめんじゃこの薄いトレイが混じっているのは、だめなのですか。分別をはっきりと教えてください。

(西岡委員)

汚れているか汚れていないかで、燃やすごみにするかどうか。トレイの厚さじゃない。

(佐伯委員)

洗って、きれいにしたものはプラスチックごみで、汚れたものは燃やすごみといわれるので、どうしたらいいのか、はっきりしていなくて、出すのに迷うんですね。

(事務局)

プラスチックごみの汚れたものは燃やすごみで出すと言うわけではなく、汚れているものは、洗って汚れを落としていただいて、リサイクルするためにプラスチックごみで出してほしいのですが。

(佐伯委員)

それだけ本当にシビアにできればいいんでしょうけど、まあ、これぐらいだったらという感じで出して、汚れたものもあったり。私も、うちの前がごみステーションなので、チェックしたりしていますが、燃やすごみにペットボトルが混じっていたり。それでも、ごみ収集の人は持ってってくれるので、「取って帰ってくれた」いうことで、きちんと分別するようになっていない。

(事務局)

今の可燃の方の話で、今度は、プラスチックごみ、容器包装リサイクルごみのことになると、ラインに流して、悪いものが混じっていると品質が落ちるので、それは全部分別しています。容リプラは悪いものはピックアップしています。そうしないと、品質が下がると、リサイクルの買取り価格も下がりますので。プラスチックごみは、ラインに流して分別していますが、可燃ごみは分別できません。

(野村会長)

プラスチックごみについては、市民の良識にも頼らないといけないところもあると思うのですが。

(佐伯委員)

出し方の悪いところがありますよね。もう少し、出し方を徹底したらどうですか。

(野村会長)

ごみの出し方については、啓蒙もしていただいているところじゃないでしょうか。

(伊藤部長)

先ほど、平田委員さんがおっしゃったように、白色の発泡スチロールのトレイはリサイクルできるプラスチックごみなのですが、ごみの種類ごとに、このような「ごみ分別辞典」を各家庭にお渡ししておりますが、この中には、細かくどういうものがリサイクルされるのか、プラスチックごみの日にはどういうものが出せるのかお示しております。ただ、この資料は、先ほど事務局の方から説明しましたように、燃やすごみの中に、本来はリサイクルに回せるプラスチックごみとして出させていただくものが混じっておりまして、この資料には汚れあり、汚れなしと分けて書かれておりますが、燃やすごみの中にリサイクルに回せるものが全体の7%ほど混じっておりまして、私ども行政といたしましては、本来、市民のみなさまがリサイクルに回せばごみの一人当たりの処理量も減ってきますことから、適切な分別、適切な排出ができるような啓発活動が、まだまだ十分できていないところがあるのかな、というところで反省はしております。

(平田委員)

発砲スチロールの薄いトレイも洗って別にしたらいいということですね。そうしたら、卵のパックとかはビニールでしょ。白い分厚いのはプラスチックごみで出すというの分かっていますが、ビニールの薄いパックなどは、燃やすごみに結構混じっていますよ。そういうのは、燃やすごみに出してもいいということを知ったことがあるのですが。

(伊藤部長)

それも、プラスチックごみで出してください。燃やす必要のないもので、リサイクルできますので。確かに、いろいろなナイロン製品、プラスチック製品がありますので、悩ましいものもあると思いますが、先ほど申しましたように、ごみ分別辞典を見ていただきますと、わりあい細かいところまで載せておりますので、お帰りになられましてご確認していただけたらと思います。

(眞鍋副会長)

私なりにまとめさせていただきます。まず、生ごみ量の平均の出し方ですが、市町村によって回収の仕方が違うので、国のルールは、集めたものを人数で割るといようなことなんでしょうが、数字の結果だけ比べたもので、それに関してちょっとコメントしたいのですが。一時期、ごみの有料化が流行りました。松山、京都、熱海など、有料化したからごみが減った減ったというのですが、その時に、たいてい事業系ごみを締め出しているんです。家庭ごみが減ったのと全然関係ない話なんです。その辺を間違えると、全然違う方向にいつてしまう。そういう問題があります。

それから、ごみの分別ですけど、実際は、市で回収してから後、現場でいろいろベルトコンベヤーを流しているなかで細かく分別していると思います。だから、結果として新居浜市も、細かく分けていると思うんですね。細かいとこまで比較したことはないから、分かりませんが。ただ、われわれが家庭から出したのが最終というのではなく、また、あれを分けているんです。さっきのプラスチックごみもベルトコンベヤーで容器包装ごみと燃やすごみに分けているんですね。そういうことを現実にやっています。それと、もう一つ混乱は、プラスチックごみと容器包装リサイクルごみというやつですね。昔はこういうの無かったんですが、あまり細かいことを言っていないので、集めてから手作業で分けているのが現実なので。細かく言っても言えないので。まあ、言えること

は、プラというマークが入っているかどうか。入っていたらプラスチック製容器包装ごみで。

(平田委員)

プラスチック製容器包装とプラスチックというのはどう違うのでしょうか。

(野村会長)

それについては、また分別辞典を確認していただくということでよろしいでしょうか。

(西岡委員)

分別辞典については、前の横川部長にもだいぶ言ったのですが、こんな薄っぺらいのでは辞典じゃないですよ。他の市はもっと分厚い。これは、困った時に見ても、何も載ってない。分かりきったことしか載せてない。前に、見本も渡したこともあるんですが。

(野村会長)

また、工夫できるところがあれば、市の方で対応していただくということで。それでは、議事を進めていきますが、私の方からひとこと、よろしいでしょうか。

このグラフを見ますと、家庭ごみは357tマイナスになっておりますので、この原因としては、人口の減少もあるでしょうし、生ごみのたい肥化であるとか減量の努力、あとは、資源ごみを分別して資源ごみの集団回収など、そういう結果でごみが減ってきているのではないかというのが、私の観点ですけれども。眞鍋委員さんが出していただいた、ごみの内容ですとか、集団回収のごみの内容とか見てみますと、生ごみの中に水分が含まれていますよね。ごみの重さが重くなります。水分が減ったらごみの重さも減る。少しはそういう影響もあるのかなと感じました。事業系ごみの分別については、市の方から指導していただいて、リサイクルできるものはリサイクルしていただく。これから、さらに働きかけていただくと言うことですね。そして、リサイクル率が少しでも上がっていくのではと思います。それでは、時間の関係もありますので、次の議題のほうに移っていきたいと思います。

それでは、3の「平成28年度のごみ減量施策」について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局) 説明

(野村会長)

事務局より、説明がありましたが、何かご意見やご質問はございませんか。

(永易委員)

よろしいですか。8ページ目のところの、資源ごみ集団回収補助に古紙というのがありますがこの古紙の日にごみステーションに持っていくのは、ダンボール、新聞紙、雑誌、などそれ以外に去年ぐらいから、雑用紙というのですか、何の袋へでも入れて、いろいろな紙を入れなさい、ということをやっているのは、私どものステーションでは、私だけなんです。あるいは、だいたい燃やすごみのほうに入っていくんですね。あれをもう少し啓蒙して、みなさんが「そんなことあるの」

と知らない人の方が多いので、これをぜひPRしていただければ、燃やすごみの中に紙のごみがものすごく減ると思いますね。我が家もかなり減っていると思うんですけど、これを各家庭でやる。集団回収でこれをするのはいやがられるかもしれないので、古紙の日に各家庭で出すというのを、広報していただけたらと思います。

(野村会長)

事務局の方から何かございますか。

(事務局)

古紙についてはご意見のように、まだまだPRが足りないのかなという認識はありますので、色々な機会でも広報していきたいと思います。私ごとで申し訳ないのですが、私も家庭で紙袋に雑紙を分別しだして、嫁もやっと協力してくれるようになりまして、ちょっと時間がかかりましたが、慣れればそんなに苦になりませんので。

(永易委員)

あれは、どういう容器で出せばいいんですか。私は紙袋で出していますが。

(事務局)

それが一番ありがたいです。

(永易委員)

手提げの紙袋ですか。その辺も、みなさんあまり知りませんよね。あれが、ビニールの袋に入れたらあかんのでしょうか。

(事務局)

だめです。

(永易委員)

紙袋に入れて出すというのは、ほとんどの方が知らない。紙袋に入れて捨てにいったら、何を捨てとん？という感じでみられるぐらい、まだ普及してないですね。

(平田委員)

私らは、昔は、新聞は新聞、雑誌は雑誌と分けて。市政だよりもきれいにのぼして新聞と一緒に出したらいいんじゃないかと思うのですが。

(西岡委員)

市政だよりなどは、新聞といっしょにしたらいかん。市政だよりは雑誌。

(眞鍋副会長)

古紙の分類で雑誌というのではなく、雑紙（ごつがみ）と言うんですね。雑紙の中に雑誌や色々な紙や一枚ものの紙を出すように。このごろ、新聞紙に折込チラシを混ぜるのはいいという風になっていますが。

(野村会長)

確かに、集団回収の時に、雑紙を入れた紙の袋を出すのは最初遠慮していたんです。古紙の項目の案内の中に雑紙が入ってなかったものですから、出してはいけないのかなと思って。でも、自治会の方で、古紙の中に入るようになりましたので、堂々と出せるようになりました。そのところの啓蒙は、まだこれからかなと思います。

1回確か、市政だよりで、ああいう紙を紙袋に入れて出してくださいというのがありました。古紙の捉え方が、例えばお菓子の小さな紙の容器など、燃やすごみに出す人もいるし、これは古紙だということで古紙に出す人もいるし。その辺の違いを、これから啓蒙していただくところかなと思います。そうすると、この燃やすごみの中の古紙のところは0%に近くなっていくのかなと思います。それから、もう一つ質問なんですけど、レジ袋削減のところ、これから他業種、ドラッグストアなどへのアプローチを行っていく予定だと書いてあるのですが、いつ頃からかとか、こここのドラッグストアは取り組んでくれるとか、ここは全国チェーンだから簡単にはいかないだとか、いろいろあると思いますが、その辺を市としては、どのように働きかけていこうとしているのか、お伺いしたいのですが。

(事務局)

ドラッグストアですと、メディコ21さん、レデイ薬局さん、ササオカさん、マックさんなどがありますが、ひととおり協力をお願いをしております。レジ袋の無料配布中止は難しいですが、マイバック持参に協力していただけたところは、啓発ポスターやミニのぼりを置かさせていただいており、全く協力できませんと言われたお店もあります。

(野村会長)

協力できないという理由は？

(事務局)

お客さんが他のお店に流れていってしまうということでしょうか。スーパーは協議会を作りまして、レジ袋無料配布中止の協定を結びまして、足並みをそろえて取り組むことができましたが、ドラッグストアは、親会社さんの方が音頭をとっていただければ、一斉にということもあるかもしれませんが、なかなか難しいかと思います。

(伊藤部長)

補足なのですが、皆さんご存知かと思いますが、地球高温化対策協議会というのがございまして、毎年秋にマイバックキャンペーンというのをしております、今年もポスターを作りまして、レジ袋の無料配布中止をしていないドラッグストアを含めまして、ポスターを配布させていただくなど、取り組みを継続しております。

(野村会長)

他に、ご質問やご意見はありませんか。

(眞鍋副会長)

いいですか。一つは、資源ごみの集団回収ですけれども、団体数の推移ですが、資料にあるように、増えているのは自治会。老人会のだんだん勢力がなくなってきました、ちょっと前までは老人会が頑張っていましたから、ここの自治会からは資源ごみはステーションに出ないと言われるぐらい頑張っていました、このごろは老人会が減ってしまって、活動をやめてしまったところもたくさんあります。今後は多分、コンスタントに伸びるのは自治会が可能性あると思うのですが。確か、去年は案内状というか、各自治会に出しましたよね。

(事務局)

連合自治会の会で説明させていただき、各自治会へ案内状を出しました。

(眞鍋副会長)

自治会も会長が変わると、ガラッと変わるので。なったばかりは、なかなか決められないし。年度始めじゃなくて、なかなかタイミングの問題と年に何回か、なったばかりと、もうちょっと後の時期と、年に何回か案内を出さないと、いかなのじゃないかと思うのですが。とにかく、この自治会を増やすような工夫をしていくのが、一番現実的かなと思いますね。

(野村会長)

自治会の方はどうですか。

(西岡委員)

自治会の方も、毎年ごみ減量課から、案内をもらいますが、自治会長がほとんど毎年代わるころが多いので、代わったときに案内しても遅いんですね。業者の選定をしたり、年何回するとか総会で決めないといかんし。

(野村会長)

やってないところに働きかけるのはなかなか大変と言うことでしょうか。

(西岡委員)

そうですね。やはり、2年、3年続けて自治会長をされるころの方がいいですね。来年取り組もうとか、計画を立ててできますから。

(眞鍋副会長)

74は何%ぐらいですかね。自治会の全体の数はどれくらいですが。

(西岡委員)

自治会数は311です。

(眞鍋副会長)

あまりにも少ない。まだまだ可能性は十分ある。何年か前に個別にあたったら、65から70に増えましたから。

(西岡委員)

僕らも昔はしていましたが、最近はお世話する人がなかなかいないので、やめるところが多いんです。

(小野委員)

あまり自治会に頼ると、自治会の役員をする人がいなくなるんです。これ、現実なんでね。やっぱり、現実も踏まえてしないと、なかなか難しい。世話する人がいなくなって、自治会がつぶれますからね。大変なんですよ。

(眞鍋副会長)

自治会も、個々の事情があるから、300ある内の何個かが取り組んでもらえたら。まあ、出来る範囲で伸ばしていくようにしたらいいんじゃないかと。

(西岡委員)

自治会館の大きいような所は、自治会館に持ってきてもらって、ストックしておくような方法しか、今はないんですよ。

(眞鍋副会長)

方法は今ね、3つ4つの方法でやられてますよね。それぞれ、合った方法でやっていただいたら。もうちょっと増やせる可能性、あると思うんですよ。

(小野委員)

可能性はあるかもわかりませんね。でも、あまり無理言うたらいかんでしょうね。

(野村会長)

はい、では、また心がけていただいて。

私からの質問なんですけど、小学校、中学校で集団回収というのは、具体的にはどういうふうに、されているのでしょうか。

(高橋委員)

これは、学校によっていろいろ取り組みが違うと思うのですが、うちの学校の小学校でいえば、児童会が中心となってエコキャップ回収をしています。あと、PTAが年3回程、古紙とアルミ缶

を集めています。子どもの清掃活動としては、年に1回、時間を取って全校でしております。

(野村会長)

アルミ缶とか新聞紙とかは、学校に持ってきていただいているんですか。

(高橋委員)

P T Aが地域を回って集めています。地域に出していただいて、回収しています。

(西岡委員)

昨日、学校は最後の日で、中学生は新聞紙を自転車に積んで、登校していましたね。

(永易委員)

この資源ごみの回収で、団体で集める量と、収集日に各家庭からごみステーションに出す量と比べると、この3ページ目の図の資源ごみというので、4,600トンぐらいあって、団体で1,700トンです、3割ぐらいですよ。団体でいろいろ経費をかけてするよりも、各家庭で収集日に出すのを徹底したほうが効率的ではないかと思いますが。ちょっと変な見方をしたのですが、いかがでしょう。集団回収というのが、ぐんぐん伸びている世界ならいいんだけど、ここにまた補助金をいっぱい使ってやるぐらいなら、各家庭で、ただで、ちゃんとこの回収日に出すようにしたら、市としては効率的なんじゃないでしょうか。

(眞鍋副会長)

私の意見ですが、集団回収の方が、素性がいいです。きれいに出してくれます。お金のことはちょっと、補助金のことは分かりませんが、一つは意識啓発がありますね。また分類が徹底するかどうかね。うーん、まあ、どちらとも言えないけど。

(永易委員)

私の自治会は集団回収がないんですよ。そうすると、指定日、びん缶や古紙の日に一生懸命出しますよ。それで、何でいかんのかと、ずっとそういう気がしているので。

(眞鍋副会長)

私とこの自治会は集団回収で年間7万くらい費用が入ってくるんです。これが、自治会の費用として使えるわけで、メリットがあるんですよ。

(伊藤部長)

永易さんが言われましたことで、数字的なことを申し上げますと、26年度の数字になりますが、集団回収の量は1,883tですが、ステーションで回収した古紙類が2,273tですからステーションで回収するほうが多くなっております。また、一人当たりのごみ量で申しますと、この集団回収で集めたごみ量は、この一人当たりのごみ量にカウントされません。ですから、たくさん集団回収で古紙を集めていただいた方が、一人当たりのごみ量が統計上は少なくなっていくというこ

とになります。

(野村会長)

はい、ありがとうございました。

(眞鍋副会長)

古紙では集団回収とごみ収集とトントンぐらいじゃないですかね。アルミ缶は集団回収のほうが多いんじゃないですか。種類によりますね。

(野村会長)

他に何かございませんか

(眞鍋副会長)

そうしたら、もう一つ。こういうデータをいろいろ出してくれるんですが、結局、国のルールとして、こういうデータを出しなさいというのがあるんでしょうけど、個々のごみからすると、例えば、家庭ごみと事業系ごみを分けて集計してくれると、何をどうしたらいいのかが、見えてくるんですけど。これを一緒にしたにすると、家庭で市民は何をしたらいいのかが、見えないんですよ。だから、今後、一人当たりのごみ量に事業系ごみも入っているということはいいいんだけれども、今後、温暖化問題もあって、国が家庭の炭酸ガス排出量の30%を、40%だったかな、減らすような目標を立てているということをやるとすると、とにかく家庭で市民が何をやるかということが大事なので、それが見えるような集計の仕方をしないと、せっかくこういうデータがあっても生きない。その、手っ取り早いのが事業系ごみと分けた集計の仕方。そういう事をしていただくと、見えてくるかなと思いますね。外へ公的に出すものは別ですが、こういう中で対策をするときは家庭ごみと分けて集計をお願いしたい。リサイクル率が下がっているのも、なんで下がっているのか、よく分からない。

(野村会長)

この程度の分け方では、わからないということでしょうか。また、事務局の方で、工夫をしてください。

(飯尾委員)

あの、アドバイスをいただけたらと思うのですが、事業系のごみが増えているのは間違いがないのですが、業態にもよるとは思います。我々のような事業所ですと紙のごみがものすごいのですが、いろいろ電子化して、工夫はしているんですが、やっぱり紙のごみが一番多くなります。さっき言われていた様に、紙の袋に入れて資源回収みたいな形で、事業所ごとに出したので、それはごみじゃなくなるんでしょうか。

(事務局)

ごみはごみですね。ごみとして回収して、リサイクルするということになります。清掃センター

に持ち込む時に、紙は紙だけでしばっていただくと、燃やすごみのピットにいれず、リサイクルする方へ回しますので、事業系ごみですけど、仕分けをしていただいて、持ち込んでいただけたらと思います。

(小野委員)

シュレッダーにかけた紙ごみはだめなんですか。シュレッダーにかけると、秘密が漏れたりするでしょ。

(事務局)

シュレッダーにかけたものは、リサイクルできません。

(飯尾委員)

そうしないといけないものと、シュレッダーしなくていいものと、その辺分けるひと工夫で違うのかなと思うのと。実際、我々も処理の部分でいうと、委託しているんですよ。そうなると、多分、一緒くたで行っていると思うのですが、そこまで、処理業者さんに委託ができるのかな、というのがあって。家庭のごみはきちんと分別するけれど、どこか遊びに行った帰りなど、コンビニとかのごみ箱にポンポンごみを入れるのは、めちゃくちゃ入っていたりするんですよ。そういうのが、事業ごみの類になると思うんです。結局、そういうのが、展開検査してみると、めちゃくちゃ入っているということになっているんでしょう。委託業者さんへの指導というのは、どうなんでしょう。

(事務局)

許可業者への指導はしましたが、排出業者への指導はできておりません。

(平田委員)

すみません。今、ごみを焚いている燃料は、お金になってないのですか。

(野村会長)

燃やすごみの燃料についての質問ですね。

(平田委員)

何かの役に立つようなことには。

(伊藤部長)

清掃センターでは燃やすごみがほとんどなんですが、燃やすことによって熱がでますので、その熱を回収してお湯を沸かしてボイラーで発電し、清掃センターで使っています。余った電気は四国電力へ売ったりしています。

(平田委員)

磯浦の温泉もそうでしょ。

(伊藤部長)

そうですね。

(平田委員)

それでも、ごみを減らしたいということですか。

(伊藤部長)

そうですね。ごみを燃やす副産物として発電したりしておりますが、ごみが少なくなりますと、比例して発電量も下がってまいりますけども、ごみを焼くにあたりましては、ごみを集めたり、色々な経費がそれ以外にもかかってまいりますので、ごみ総量は、やはり減らす必要があるとは思っています。

(真鍋副会長)

大きく言うのですね、温暖化の話があるじゃないですか。炭酸ガスを出したらいかんと。地球がだんだん温暖化すると。この炭酸ガスの原因が何かというと、人間が老廃物を出すからであって、このごみを減らすということが、炭酸ガスが出る量を抑えるということで、回り回ってくるということですね。

(野村会長)

ごみについていろいろな意見が出てまいりましたが、ごみについては、まだまだ語りたい内容があるとは思いますが、お時間も近づいてまいりましたので、これをもちまして、閉会にしたいと思います。

(小野委員)

時間が無いのに、すみません。最後に、市へお願いなんですけど、先日、土曜日にごみを捨てに清掃センターへ行ったのですが、ものすごく混んでいました。聞いたら、土曜日はいつも混んでいると。なんか方法はないかと自分なりに考えたのですが、新しく受け付けを作るということは難しいでしょうから。解決方法として、あの、住所と名前を書くところがあるでしょ、あそこが一番混みますよ。30台も40台も混んでいるときは、費用対効果もあるでしょうけど、バイトでも雇ってね、先に持って行って、書いてもらうようにしたらどうでしょう。そうすれば、10分、15分違いますよ。この間は、40分待ったんだから。費用対効果のこともあるでしょうけど、市の方で検討してもらえませんか。市民の方は大変だと思いますよ。

(伊藤部長)

言われますようなことが、顕著にでてまいりますのが、年末とかゴールデンウィークでございまして、渋滞して、ひどい時は1時間も待つていただくことがあります。そういう時は、職員が事前に申請書をもって渋滞の列に行きまして、書いてもらうようにしています。ただ、普段の土曜日にごとまでやるかは、また、混み具合を見ながら検討させていただきます。

(野村会長)

また、さらに検討していただけたらと思います。それでは、あとはよろしいでしょうか。では、時間もまいりましたので、これを持ちまして審議会を閉会いたします。みなさん、ご協力ありがとうございました。

(事務局)

どうもありがとうございました。